情報組織化研究グループ月例研究会
2025.7.26

NCR2018の「それから」

連続企画「図書館資料組織化の”三大ツール”（目録・分類・件名）の現状を考える」

渡 邊　隆 弘
（帝塚山学院大学）

watanabe@tezuka-gu.ac.jp

自己紹介

渡邊　隆弘

1985～2006　神戸大学附属図書館
2006～　　帝塚山学院大学（堺市南区）

帝塚山学院大学
TEZUKAYAMAGAKUIN UNIVERSITY

2006～　日本図書館協会目録委員
　　2015～ 目録委員長

1995～　日本図書館協会件名標目委員
2010～　大阪狭山市社会教育委員
2019～　これからの学術情報システム構築検討委員会
　　システムワークフロー検討作業部会委員

書いたものなど：
https://www.tezuka-gu.ac.jp/public/libsci/watanabe/watanabe.html

本日の案内

『日本目録規則2018年版（NCR2018）』刊行翌年、タイトルに「はじまり」と入れた小文を書き、その意図として「策定は『助走』であって、完成がスタート地点、実装こそが『本番』である」と述べた。

それから7年目となり、国内の主なデータ作成機関での適用が一段落したといえる状況であるが、各機関ともさまざまな制約の下での実装となっており、安定軌道に乗ったとは言い難い面もある。

今回機会をいただき、NCR2018刊行後の目録委員会の活動を整理するとともに、今後の課題等についてご参加の皆様とともに考えてみたい。

カレントアウェアネス
No.340　2019年6月20日

渡邊隆弘「『日本目録規則2018年版』のはじまり：実装に向けて」『カレントアウェアネス』340, 2019.6.
https://current.ndl.go.jp/ca1951

CA1951

『日本目録規則2018年版』のはじまり：実装に向けて

帝塚山学院大学人間科学部／日本図書館協会目録委員長：渡邊隆弘（わたなべたかひろ）

1.　NCR2018 の完成

2018年12月、日本図書館協会（JLA）目録委員会は『日本目録規則2018年版』（NCR2018）の冊子体を刊行し[(1)]、2019年1月にはPDF版を公開した[(2)]。『日本目録規則1987年版改訂3版』[(3)]を刊行した2006年前後から検討を重ね、2013年からはJLA目録委員会と国立国会図書館（NDL）収集書誌部との連携作業として策定を進めてきたものである（E1496参照）。

NCR2018は、NCRの歴史の中で最も長期にわたって適用されてきた「1987年版」に代わるものである。さらに、FRBR等の概念モデルに準拠し、RDA（Resource Description and Access；CA1766、CA1767、CA1837参照）との相互運用性の担保をめざしたことで、これまでのどの版よりも抜本的な見直しとなった。

その構成・内容や策定経緯については、与えられた紙幅には収められないため別稿[(4)]及び規則自体[(5)]に譲り、本稿では今後の実装に向けての課題等について述べることとしたい。規則の実装には様々な選択肢があり、データ作成機関によって判断されるべきものである。なお、本稿の記述の多くは私見であり、目録委員会の公式見解ではないことをお断りしておく。

本日は

- NCR2018そのものの紹介は、ほぼ割愛
- 完成後の委員会活動
- NCRの今後？（具体ビジョンがあるわけでは…）

基本的に、私見です

目次

1. NCR2018とその実装状況
2. 目録委員会の活動
3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体
4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺
5. 目録委員会2019-2025（3）その他
6. NCRの今後？

おわりに

目次

1. NCR2018とその実装状況

2. 目録委員会の活動

3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体

4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺

5. 目録委員会2019-2025（3）その他

6. NCRの今後？

おわりに

『日本目録規則2018年版』（NCR2018）

冊子体（2018.12刊行）、PDF版（2019.1公開）
JLA目録委員会とNDL収集書誌部の連携

公益社団法人 日本図書館協会
Japan Library Association

サイト内を検索

アクセス

日本図書館協会とは　おしえてJLA!　研修・育成　賞・助成事業　図書館の最新動向　図書館統計・資料・データ　その他

ホーム　委員会　目録委員会　日本目録規則2018年版

日本目録規則2018年版

公開日 2025年04月25日　更新日 2025年07月08日

規則の最新バージョンは、本ページで公開しています。

<参照>

- 『日本目録規則2018年版』（NCR2018）の2025.5更新について
- 更新事項累積一覧

日本目録規則2018年版冊子体第4刷に対応した旧バージョンは以下をご覧ください：（準備中）

目次

http://www.jla.or.jp/committee/mokuroku/ncr2018

5個のPDFファイルに分割して提供しています。

NCR2018策定の経緯

2006	『1987年版改訂3版』刊行
2010.9	全国図書館大会奈良大会 抜本的な改訂の方針を表明（JLA目録委）
2013.2	NDL「書誌データ作成・提供の新展開」
2013.9	JLAとNDLの連携作業に（「基本方針」） ＊刊行目標は「2017年度」
2017.2	「全体条文案」公開 以後、検討集会、パブコメ
2018.3	「予備版」刊行（PDF）
2018.12	冊子体刊行
2019.1	PDF版公開

NCR2018策定の基本方針

国際標準（ICP等）に準拠

＝FRBRを基盤とする規則

RDAとの相互運用性を重視

エレメントの設定は、基本的に対応

日本における出版状況等に留意

NCR1987年版とそれに基づく目録慣行に配慮

あえてRDAと異なる本則とする箇所も

論理的でわかりやすく、実務面で使いやすく

あえてRDAと異なる構成をとる箇所も

ウェブ環境に適合した提供方法

NCR2018の特徴

FRBRを基盤とすることによる特徴	FRBRモデルに密着した規則構造 典拠コントロールを明確に位置づけ 全著作の典拠コントロール 関連の記録 資料の内容的側面と物理的側面の整理 → 機械可読性の向上
RDAとの相互運用性の担保に伴う特徴	エレメントの設定（増強など） 語彙リストの設定 意味的側面と構文的側面の分離 → 機械可読性の向上
その他、日本の事情等による特徴	書誌階層構造の考え方は維持 日本の出版状況等に応じた規定 「読み」に関するルール

NCR2018の実装状況

国立国会図書館（NDL）

2018.3 「書誌データ作成・提供計画2018-2020」
（2021.1適用を明記）

2019～2020 適用細則案の公開、
MARCフォーマット変更箇所公表

2021.1 適用開始、適用細則確定版公開

2021.5 JAPAN/MARC MARC21フォーマット改訂

著作典拠の新設
引き続きMARC21フォーマットを使用（一部改変）
資料種別、出版表示等、キャリアに関する情報、
関連指示子 など

NDL「日本目録規則2018年版（NCR2018）について」
https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/index.html

NCR2018の実装状況

図書館流通センター（TRC）

2021.1　MARCフォーマット改定情報公表

2022.1　適用開始

「TRC MARCニュース
https://tooli.trc.co.jp/news/public/marc/marc_news/

トーハン

2023　適用情報公表

2024.3　適用開始

トーハン[e-slip　お知らせ]
https://www.eslip.jp/ESlipSystem/Common/esNews.aspx

両MARCとも
　著作典拠の新設
　既存のMARCフォーマットを使用（一部改変）

NCR2018の実装状況

主要なステークホルダーでの実装は一段落

国立情報学研究所NACSIS-CAT

2021.6　新システム（OCLC CBS）導入発表

2022.2　適用細則案パブコメ

2022.11「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について（2022）」

2023.1　新システム稼働

2023.12～2024.3　コーディングマニュアル等パブコメ

2024.10 適用開始

統一書名典拠を著作典拠に
引き続きCATPフォーマットを使用し、改変は最小限

国立情報学研究所「目録所在情報サービス」
https://contents.nii.ac.jp/catill

カレントアウェアネス
No.340　2019年6月20日

渡邊隆弘「『日本目録規則2018年版』のはじまり：実装に向けて」『カレントアウェアネス』340, 2019.6.
https://current.ndl.go.jp/ca1951

CA1951

『日本目録規則2018年版』のはじまり：実装に向けて

1.

2

を刊

た2

携作

N

る。

CA1

しと

そ

(5)

選択

り、目録委員会の公式見解ではないことをお断りしておく。

実装を考えるうえでの課題

（1）機械可読性の確保

「最重要の条件」

例えば、関連の記録で「非構造記述」は避ける

（2）著作の典拠コントロール

典拠データ作成を行う範囲？

作成しない場合も、著作AAPは認識できるべき

（3）書誌フレームワーク

引き続きMARC？

NCR2018の実装状況

（1）機械可読性の確保

各機関でそれなりに留意されている

「関連」表現

識別子を用いたリンク表現

関連指示子の導入

MARC改変等による新規エレメント対応

資料種別、出版表示等、キャリア関連など

CATPの制約から、NACSIS-CATがやや弱い

注記に入れ込む形をとる場面が多い

NDLサーチ

著者標目	著者 ： Greenhouse, Linda (033639661) 典拠 訳者 ： 高畑, 英一郎, 1967- タカハタ, エイイチロウ, 1967- (001131240) 典拠
出版事項	東京 : 勁草書房 (出版)
出版年月日等	2024.7
出版年（W3CDTF）	2024
数量	151,31p
大きさ	20cm
その他のタイトル	THE U.S. SUPREME COURT
出版地（国名コード）	JP
本文の言語コード	jpn
原文の言語コード	eng
表現種別	テキスト
機器種別	機器不用
キャリア種別	冊子
件名標目	アメリカ合衆国最高裁判所 アメリカ ガッシュウコク サイコウ サイバンショ (00628134) 典拠
NDC10版	327.953 ; 司法．訴訟手続法
NDLC	AU-773
対象利用者	一般
一般注記	原タイトル: THE U.S. SUPREME COURT 原著第3
書誌注記	文献あり 索引あり

```
7001  $a Greenhouse, Linda $e 著者 $0 033639661
7001  $6 880-05 $a 高畑, 英一郎, $d 1967- $e 訳者 $0 0
```

$e（関連指示子）新設
上は#44.1.1　創作者
下は#44.2.1　寄与者

336～338新設
#5.1　表現種別
#2.15　機器種別
#2.16　キャリア種別

```
300   $a 151,31p ; $c 20cm
336   $a テキスト $2 ncrcontent
337   $a 機器不用 $2 ncrmedia
338   $a 冊子 $2 ncrcarrier
```

504（書誌注記）既設
#5.16　付加的内容

```
500   $a 原タイトル: THE U.S.
504   $a 文献あり 索引あり
```

リンダ・グリーンハウス著『アメリカ連邦最高裁判所』
http://id.ndl.go.jp/bib/033609540

NCR2018の実装状況

NACSIS-CAT以外は、
著作ー創作者のリンク運用

（2）著作の典拠コントロール

かなりまちまちの対応

NDL

古典作品
日本語訳のタイトルが複数存在する近現代の作品

TRC

「単行単位で2以上のMARCが存在するもの」

トーハン

文学作品（9類）を中心に、その他の「著名な基礎的文献」も

NACSIS-CAT

基本的には、既存の統一書名典拠の範囲で
一方で「識別する必要があると判断」すれば何でも？

NCR2018の実装状況

（3）書誌フレームワーク

NDL、TRC、トーハン

既存の各MARCフォーマットを維持し、一部改変

NACSIS-CAT

内部的にはMARC21に準じたフォーマットに
接続方式はCATPを維持し、最小限の改訂

BIBFRAME等が具体の俎上にのぼっているところはない

目次

1. NCR2018とその実装状況

2. 目録委員会の活動

3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体

4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺

5. 目録委員会2019-2025（3）その他

6. NCRの今後？

おわりに

日本図書館協会目録委員会

2025.6.30
JLAサイトリニューアル

公益社団法人 日本図書館協会
Japan Library Association

日本図書館協会とは　おしえてJLA!　研修・育成　賞・助成事業　図書館の最新動向　図書館統計・資料

ホーム　委員会　目録委員会

目録委員会

当ページへのリンクはこちら: https://www.jla.or.jp/mokuroku/

お知らせ

日本目録規則（NCR）2018年版

日本目録規則（NCR）2018年版（PDF版）
日本目録規則（NCR）2018年版関連情報

日本図書館協会 目録委員会
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/

日本図書館協会目録委員会　1949.7～

1949～1952	岡田温委員長	1952年版
1952～1955	高橋泰四郎委員長	＊「解説委員会」
1955～1967	関野真吉委員長	1965年版
1967～1970	中村初雄委員長	
1970～1971	小田泰正委員長	
1972～1978	田辺広委員長	新版予備版
1978～1983	宮坂逸郎委員長	
1983～1989	丸山昭二郎委員長	1987年版
1989～1995	野村文保委員長	
1995～2007	永田治樹委員長	
2007～2009	中井万知子委員長	
2009～2015	原井直子委員長	
2015～	渡邊隆弘委員長	2018年版

日本図書館協会目録委員会

委員は、2年任期（西暦の奇数年4月スタート）
月１回程度の委員会開催（土曜日午後）

＊はるか昔のことはわからないが、少なくとも21世紀以降

2020.2以降、ウェブ会議

目録委員会議事録
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/minutes/

日本図書館協会目録委員会

2018.12

大学教員	1
NDL	2
大学図書館	4
MARC企業	2

2019.4

大学教員	4
NDL	2
大学図書館	2
NII	1
MARC企業	1

2021.4

大学教員	4
NDL	2
大学図書館	2
公共図書館	1
NII	1
MARC企業	1

2023.4

大学教員	4
NDL	2
大学図書館	3
公共図書館	1
NII	1
MARC企業	1

2025.4

大学教員	4
NDL	2
大学図書館	3
NII	1
MARC企業	1
IAAL	1

規程上は「16名以内」

2025.2～4に委員公募
残念ながら、応募なし

現委員会の主な活動　内部の整理文書から

A. NCR2018の維持活動

A1.誤りや問題点の管理
A2.質問等対応
A3.誤植訂正
A4.内容更新（2022年度～）
A5.LOD対応データ
A6.データ作成事例集
A7.その他
A8.中長期検討

B. NCR2018の普及活動

B1.各種講師依頼等への対応
B2.研修会、研究会等の開催
B3.説明用素材の作成・共有
B4.解説書、解説資料
B5.各機関の実装検討への協力
B6.その他

C. 調査研究活動等

C1.RDA、LRM等の把握
C2.その他IFLA関係動向把握
C3.目録の作成・提供に関する調査

D. その他

D1.委員会サイト維持管理
D2.委員会資料、記録整理

目次

1. NCR2018とその実装状況

2. 目録委員会の活動

3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体

4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺

5. 目録委員会2019-2025（3）その他

6. NCRの今後？

おわりに

NCR2018　PDF版

2019.1.7公開

日本目録規則2018年版

公開日 2025年04月25日　更新日 2025年07月08日

規則の最新バージョンは、本ページで公開しています。

<参照>

・『日本目録規則2018年版』（NCR2018）の2025.5更新について

・更新事項累積一覧

日本目録規則2018年版冊子体第4刷に対応した旧バージョンは以下をご覧ください：（準備中）

目次

規則は、各章ごとにPDFファイルで提供しています。第2章は大部のため、6個のPDFファイルに分割して提供しています。

各章ごとのPDFファイルを統合したファイルは、こちらで公開しています：統合ファイル（2025年5月1日時点）(pdf 16.3MB Boxシステム上の共有ファイル)

規則本体の他に、関連情報のページに補足情報や概要記事などを掲載しています。あわせてご参照ください。

目録委員会報告

序説

第1部 総説

第0章 総説（2024.5.1更新）

「日本目録規則2018年版」2019.1-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018/

「関連情報」

2017.2　ページ開設
2018.3 「予備版」公開時に現名称に

日本目録規則（NCR）2018年版関連情報

公開日 2025年04月25日　更新日 2025年07月08日

目録委員会 / Last update: 2025.5.1
当ページへのリンクはこちら: http://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-info

日本図書館協会目録委員会

規則（最新版） / 本規則について / 過去の条文 / その他の関連情報（記事、方針文書等、プレゼンテーション等、会議等、委員会） / ご意見・ご質問 / 更新履歴

PDF版の更新について（2025.5.1） / データ作成事例追加(2024.3.15) / 第5刷正誤表（2025.5.1）

規則（最新版）

『日本目録規則2018年版』を2018年12月25日に刊行し、2019年1月7日にPDF版を公開しました。
2023年3月1日、2024年5月1日、2025年5月1日に、PDF版の更新を行いました。

冊子体（日本図書館協会, 2018.12.25, 761ページ, 本体価格5,000円） 第1刷正誤表 第2刷正誤表 第3刷正誤表 第4刷正誤表 第5刷正誤表（2025.5.1現在）
PDF版 （2025.5.1更新）

規則外の補足情報

「日本目録規則（NCR）2018年版関連情報」2018.3.28-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/

内容更新（PDF版） 2022年度～

『日本目録規則 2018 年版』の更新について

2022 年 9 月 20 日
日本図書館協会目録委員会

『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の冊子体刊行（2018 年 12 月）および PDF 版公開（2019 年 1 月）から、3 年が経過しました。FRBR（書誌レコードの機能要件）モデルを基盤とする抜本的な新版のため普及には一定の時間を要すると予想していましたが、2021 年 1 月に国立国会図書館（NDL）が、2022 年 1 月に株式会社図書館流通センター（TRC）が適用を開始するなど、徐々に実運用の動きが進みつつあります。

それに伴い、適用を開始された、ないしは適用を検討中の機関から、適用に関わる問題点の指摘や改善要望等をお寄せいただく機会が出てきました。また、適用に向かう機関以外からの指摘・質問も、一定数寄せられています。さらには、刊行後における目録委員会内での諸活動（データ作成事例の作成・公開など）の中でも、一定の変更・更新を視野に入れた検討を行うべきとの認識にいたった箇所が出てきています。

そのうち誤植等については、3 度の冊子体増刷に合わせて、冊子体の修正、PDF 版の修正、正誤表の公表を行ってきました。直近の修正は 2022 年 1 月で、冊子体第 4 刷と現在の PDF 版の内容は同期がとれています。誤植等の域を超え、多少とも内容に関わる事項については、冊子体の「刷」レベルでの変更は問題があると考え、一切行っていません。

『日本目録規則 1987 年版』においては、当初の刊行後 5 年前後のスパンで、特定章を大きく変更する「改訂」を行ってきました。しかしながら、更新を低コストで行える PDF 版を持っている NCR2018 においては、より迅速に更新事項を公表していったほうが円滑な運用に資すると考えます。

そこで 2022 年度より、目録委員会で決定した更新事項を適宜反映していく体制をとってまいります。

・更新事項の反映は、PDF 版に対して行います。その際、（現在も誤植等を修正する際に行っているように）変更点および修正日時をファイル内で明確に示します。

「『日本目録規則2018年版』の更新について」2022.9.20
https://www.jla.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/update-plan202209.pdf

内容更新（PDF版） 2022年度～

『日本目録規則 2018 年版』の更新について

…適用を開始された、ないしは適用を検討中の機関から、適用に関わる問題点の指摘や改善要望等をお寄せいただく機会が出てきました。また、適用に向かう機関以外からの指摘・質問も、一定数寄せられています。さらには、刊行後における目録委員会内での諸活動（データ作成事例の作成・公開など）の中でも、一定の変更・更新を視野に入れた検討を行うべきとの認識にいたった箇所が出てきています。

（中略）

『日本目録規則1987年版』においては、当初の刊行後5年前後のスパンで、特定章を大きく変更する「改訂」を行ってきました。しかしながら、更新を低コストで行えるPDF版を持っているNCR2018においては、より迅速に更新事項を公表していったほうが円滑な運用に資すると考えます。

そこで2022年度より、目録委員会で決定した更新事項を適宜反映していく体制をとってまいります。

018
ト
p/
oad
lan
202209.pdf

内容更新（PDF版） 2022年度～

PDF版を更新（冊子体増刷時は、誤植訂正のみ）

「更新について」説明文書を公表
「更新事項累積一覧」を作成

2023.3、2024.5、2025.5の3回

『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の 2023.3 更新について

2023 年 3 月 1 日
日本図書館協会目録委員会

2022 年 9 月 20 日付文書「『日本目録規則 2018 年版』の更新について」において、2022 年度以降、「目録委員会で決定した更新事項を適宜反映していく体制をとって」いき、その反映は PDF 版に対して行うとの方針を表明しておりました。

このたび、2023 年 3 月 1 日付で、最初の更新を行います。今回の更新事項は、下記（1）～（3）で、いずれも関連指示子に関する事項です。あわせて、若干の誤植訂正も行っています。更新事項の詳細は、「更新事項累積一覧」ファイル（PDF）をご覧ください。

加えて今回より、章ごと等に分けて公開している PDF 版ファイルすべてを連結した「統合ファイル」も提供することとします。

冊子体（最新は第 4 刷）に対応している旧バージョンは、別途新設した「日本目録規則 2018 年版（アーカイブ）」ページにて引き続き提供します。

なお今後は、上記「アーカイブ」状態からの変更事項を累積的に「更新事項累積一覧」にまとめて提供していくこととし、従来個々のファイルに付してきた「更新履歴」は廃止します（今回更新のないファイルにはこれまでの更新履歴情報が残っていますが、今後更新にあわせて順次削除する予定です）。

記

（1）関連指示子の新設

NCR2018 の関連指示子はこれまで、RDA の関連指示子に一対一対応させたもののみでした。適用の進行とともに、日本の出版状況等を勘案した用語新設の要望が寄せられ、検討の結果以下のものを新設することとしました。

付録#C.1.2　表現形間の関連

更新事項累積一覧

PDF公開日付	条項番号	更新内容	備考
2023.3.1	#4.18.1.2　記録の方法	例「E 119° 30′」を「E 119° 30′ 」に修正	誤植訂正
2023.3.1	#43.1.1　記録の方法	<構造記述>の最初の例 「シリーズ（著作）：」を「シリーズ：」に修正	誤植訂正
2023.3.1	#C.1.1.1	「ドラマ化の原作（著作）」を「演劇化の原作（著作）」に修正 「ドラマ化（著作）」を「演劇化（著作）」に修正	
2023.3.1	#C.1.2.1	以下２つの小見出しを新設し、各関連指示子を振り分け #C.1.2.1A　異なる著作の表現形の派生の関連 #C.1.2.1B　同一著作の表現形の派生の関連	
2023.3.1	#C.1.2.1	「ドラマ化の原作（表現形）」を「演劇化の原作（表現形）」に修正 「ドラマ化（表現形）」を「演劇化（表現形）」に修正	
2023.3.1	#C.1.2.1	関連指示子「翻刻（表現形）」を新設	
2023.3.1	#C.2.1B	関連指示子「監修者」を新設	
2023.3.1	#C.2.2A	関連指示子「校閲者」、「校訂者」、「翻刻者」を新設	
2023.3.1	#C.4.1	関連指示子「別名」の説明文「その個人が使用する筆名など…」を「その個人が使用する号、筆名など…」に修正	
2023.3.1	#C.4.1	関連指示子「筆名」および「号」を新設	
2023.3.1	#C.4.4	関連指示子「宗家」を新設	
2023.3.1	#D 項目「背」	「通常は書名、著者名、出版者名等の表示がある。」を「通常はタイトル、著者名、出版者名等の表示がある。」に修正	誤植訂正
2024.5.1	図0.3 本規則が依拠する概念モデルの概要	関連の矢印をすべて双方向に修正	
	#2.0.4　複製	「関連する著作または関連する体現形のエレメント」	

2023.3更新（PDF版）

『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の 2023. 3 更新について

2023 年 3 月 1 日
日本図書館協会目録委員会

2022 年 9 月 20 日付文書「『日本目録規則 2018 年版』の更新について」において、2022

（1）関連指示子の追加

#C.1 「翻刻」

#C.2 「監修者」「校訂者」「校閲者」「翻刻者」

#C.4 「号」「筆名」「宗家」

（2）関連指示子の修正

#C.1 「ドラマ化…」→「演劇化…」

（3）関連指示子の構成変更

#C.1.2.1（表現形間の派生の関連）

「異なる著作…」「同一著作…」の小見出し

（1）関連指示子の新設

NCR2018 の関連指示子はこれまで、RDA の関連指示子に一対一対応させたもののみでした。適用の進行とともに、日本の出版状況等を勘案した用語新設の要望が寄せられ、検討の結果以下のものを新設することとしました。

2024.5更新（PDF版）

『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の 2024. 5 更新について

2024 年 5 月 1 日
日本図書館協会目録委員会

当委員会では、2022 年 9 月 20 日付文書「『日本目録規則 2018 年版』の更新について」

（1）体現形と個別資料の間の関連について整備

#43.7 「体現形と個別資料の間の関連」新設

*今のところ、唯一のエレメント増設

#C.1 関連指示子も整備

＊特定の個別資料を原本とした複製物の扱い

（2）出版表示等の情報源について見直し

#2.5.3.2.1等 別法追加（奥付優先）

（3）出版日付等の規定の明確化

#2.5.5.1.1等 古い日付（通常は初刷）優先

（4）概念モデル図の補正

#0.3 関連を示す矢印を双方向に

資料と複製物の体現形との間に等価の関連を設定するのが自然と思われるためです。FRBR（書誌レコードの機能要件）や現行の RDA（「公式版」）等を検討した結果、以下の措置を

2025.5更新（PDF版）

『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の 2025. 5 更新について

2025 年 5 月 1 日

日本図書館協会目録委員会

（1）体現形に関する注記の条項整備

#2.41　条文と例示の追加

＊エレメント「体現形に関する注記」の直接使用を明確化

（2）著作に対する典拠形アクセス・ポイントに関する条項整備

#22.1.2　複数の創作者による共著作

＊体現形によって表示順序が変化する場合の扱いを明確化

記

（1）体現形に関する注記についての条項整備

エレメント「体現形に関する注記」（#2.41）は、その下位に「タイトルに関する注記」（#2.41.1）～「体現形の識別子に関する注記」（#2.41.13）の 13 個のエレメント・サブタイプを設けていますが、上位の#2.41 を直接使用できるのかどうかが不明瞭でした。

今回、条項「体現形に関するその他の注記」（#2.41.0.3.2）を新設して条文と例示を置き、直接使用できることを明確化しました。

内容更新（PDF版） 2022年度～

PDF版を更新（冊子体増刷時は、誤植訂正のみ）

「更新について」説明文書を公表

「更新事項累積一覧」を作成

2023.3、2024.5、2025.5の３回

『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の 2023.3 更新について

2022 年 9 月
年度以降、「
反映は PDF

このたび、
～（3）で、
ます。更新事
加えて今回
合ファイル」

冊子体（最新は第 4 刷）に対応している旧バージョンは、別途新設した「日本目録規則 2018 年版（アーカイブ）」ページにて引き続き提供します。

なお今後は、上記「アーカイブ」状態からの変更事項を累積的に「更新事項累積一覧」にまとめて提供していくこととし、従来個々のファイルに付してきた「更新履歴」は廃止します（今回更新のないファイルにはこれまでの更新履歴情報が残っていますが、今後更新にあわせて順次削除する予定です）。

記

（1）関連指示子の新設

NCR2018 の関連指示子はこれまで、RDA の関連指示子に一対一対応させたもののみでした。適用の進行とともに、日本の出版状況等を勘案した用語新設の要望が寄せられ、検討の結果以下のものを新設することとしました。

付録#C.1.2　表現形間の関連

更新事項累積一覧

PDF公開日付	条項番号	更新内容	備考
			誤植訂正
		正	誤植訂正
		（著 修正	
		振り分	
		作（表現 に修正	
2023.3.1	#C.1.2.1	関連指示子「翻刻（表現形）」を新設	
2023.3.1	#C.2.1B	関連指示子「監修者」を新設	
2023.3.1	#C.2.2A	関連指示子「校閲者」、「校訂者」、「翻刻者」を新設	
2023.3.1	#C.4.1	関連指示子「別名」の説明文「その個人が使用する筆名など…」を「その個人が使用する号、筆名など…」に修正	
2023.3.1	#C.4.1	関連指示子「筆名」および「号」を新設	
2023.3.1	#C.4.4	関連指示子「宗家」を新設	
2023.3.1	#D 項目「背」	「通常は書名、著者名、出版者名等の表示がある。」を「通常はタイトル、著者名、出版者名等の表示がある。」に修正	誤植訂正
2024.5.1	図0.3 本規則が依拠する概念モデルの概要	関連の矢印をすべて双方向に修正	
	#2.0.4　複製	「関連する著作または関連する体現形のエレメント」	

今後の予定は、現段階では特になし

「目録の作成と提供に関する調査」（後述）のため、現在は検討休止中

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

NCR2018年版エレメント・語彙等データ提供

公開日 2025年06月29日　更新日 2025年07月22日

2019.3.23公開 Last update: 2024.9.24

当ページへのリンクはこちら: https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-LOD

日本図書館協会目録委員会

XLSX形式・2020.5.9時点でRDFデータの作成（およびXLSX形式・TSV形式データの一部見直し）を行い、チェック作業等を経て2020.12.27に公開しました。

『日本目録規則2018年版』で規定している実体、エレメント、語彙のリストの用語、関連指示子について、1) XLSX形式・TSV形式データ、および2) RDFデータの提供を行います。なお、データ表現等において両者は異なる部分を含みます。
LOD（Linked Open Data）の実現に向けて、可能な範囲のデータ提供から実施いたします。

XLSX形式・TSV形式データ

提供ファイル

TSV形式ファイルは、システム上の事情により、拡張子を.txtとしています。

実体 XLSX TSV(.txt) *2020.5.9更新
エレメント XLSX TSV(.txt) *2024.8.17更新（2024.5.1時点データ）

「NCR2018年版エレメント・語彙等データ提供」2019.3.23-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-lod/

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

「日本目録規則 2018年版」（仮称）東京検討集会の概要

日本図書館協会目録委員会

■はじめに

大阪市立中央図書館において2017年３月５日（日）に開催された関西検討集会に続き，５月12日（金）に日本図書館協会において，「日本目録規則2018年版」（仮称）[1]（以下，2018年版）東京検討集会が開催された。日本図書館協会目録委員会（以下，目録委員会）の主催による。東京検討集会には各種図書館，研究機関，データ作成機関等から73名の参加者があった（目録委員会委員を含む）。

■検討集会の概要

１．2018年版に関する説明

渡邊隆弘目録委員長から挨拶に続き，新しい日本目録規則の策定にかかる経緯と背景，2018年版の概要について報告を行った[2]。各委員からは各章の説明とデータ事例の紹介を行った。詳細は関西検討集会の概要をご覧いただきたい[3]。

【当日の報告者】

「策定経緯・背景，概要（序説～属性総則）」
渡邊隆弘目録委員長
「体現形・個別資料の属性」野美山千絵子委員
「著作・表現形の属性とアクセス・ポイント」
木下直委員

「個人・家族・団体の属性とアクセス・ポイント」
河野江津子委員
「関連の記録」村上遥委員
「データ事例」田代篤史委員
「関西検討集会報告」横山英子委員

２．意見・質疑

関西検討集会では，情報組織化研究グループの和中幹雄氏から，2018年版に対するコメントをいただいた[4]。今回は，和中氏コメントの概要と関西会場からの質疑や意見について目録委員から紹介した後，東京会場と目録委員会との質疑応答が行われた。活発な質疑が行われ，参加者からはさまざまな意見が寄せられた。その概要は以下のとおり。

・FRBRモデルやRDA等との関係について

2018年版では保留となっているFRBR第３グループに対し，主題分析の面から不十分と指摘があり，主題分析は目録規則の外の専門家に任せた方が良いとの示唆があった。また第２グループの実体の総称としてRDA等で使われるようになってきている用語「Agent」の使用について質問があった。さらに，FRBRの各実体の重みは等しいはずだが「書誌データの根幹は，体現形の記述である」との表現は適切かと問いかけがあった。

2018年版の構成については，RDAと異なり実体

「「日本目録規則2018年版」（仮称）東京検討集会の概要」『図書館雑誌』111(7), 2017.7 pp.452-453
https://www.jla.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/article201707.pdf

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

「日本目録規則 2018年版」（仮称）東京検討集会の概要

・Linked Open Dataやシステムへの対応について

2018年版のLOD対応（エレメント名や語彙のレジストリ登録など）については，今後4，5年を見通した中長期的スケジュールで検討すべきであり，RDAの動向など国際的な枠組みと合致するよう国内での検討を期待する声があった。さらに，システムやユーザインタフェースの作成には，2018年版の語彙をexcel等でデータ処理しやすい形式で公開すべきとの要望があった。

本目録規則の策定にかかる経緯と背景，2018年版の概要について報告を行った[2]。各委員からは各章の説明とデータ事例の紹介を行った。詳細は関西検討集会の概要をご覧いただきたい[3]。

【当日の報告者】

「策定経緯・背景，概要（序説～属性総則）」
渡邊隆弘目録委員長

「体現形・個別資料の属性」野美山千絵子委員

「著作・表現形の属性とアクセス・ポイント」
木下直委員

さまざまな意見が寄せられた。その概要は以下のとおり。

・FRBRモデルやRDA等との関係について

2018年版では保留となっているFRBR第3グループに対し，主題分析の面から不十分と指摘があり，主題分析は目録規則の外の専門家に任せた方が良いとの示唆があった。また第2グループの実体の総称としてRDA等で使われるようになってきている用語「Agent」の使用について質問があった。さらに，FRBRの各実体の重みは等しいはずだが「書誌データの根幹は，体現形の記述である」との表現は適切かと問いかけがあった。

2018年版の構成については，RDAと異なり実体

「「日本目録規則2018年版」（仮称）東京検討集会の概要」『図書館雑誌』111(7), 2017.7 pp.452-453
https://www.jla.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/article201707.pdf

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

2019.3

とりあえず、簡易提供

刊行時委員会の最後の仕事

NCR2018年版エレメント・語彙等データ提供

目録委員会>日本目録規則（NCR）2018年版関連情報 / Last update: 2019.3.23

『日本目録規則2018年版』で規定している実体、エレメント、語彙のリストの用語、関
易な機械可読データ（XLSX形式、CSV形式）の提供を行います。策定段階のパブリッ
LOD（Linked Open Data）提供を求めるご意見をいただきました。メタデータレジス
ぐには難しいため、簡易な形式での提供を行うものです。

提供ファイル

CSV形式ファイルは、システム上の事情により、拡張子を.txtとしています。

- 実体　XLSX CSV(.txt)
- エレメント　XLSX CSV(.txt)
- 語彙のリストの用語　XLSX CSV(.txt)
- 関連指示子　XLSX CSV(.txt)
- 統合データ　XLSX CSV(.txt)

A	B	C	D	E	F	G					
ID	種別	条項番号	名称	名称（英語）	定義域	値域					
200001	20	#2.1	タイトル	title	体現形						
200002	22	#2.1.1	本タイトル	title proper	体現形						
200003	22	#2.1.2	並列タイトル	parallel title proper	体現形						
200004	22	#2.1.3	タイトル関連情報	other title information	体現形						
200005	22	#2.1.4	並列タイトル関連情報	parallel other title information	体現形						
200006	22	#2.1.5	先行タイトル	earlier title proper	体現形						
200007	22	#2.1.6	後続タイトル	later title proper	体現形						
200008	22	#2.1.7	キー・タイトル	key title	体現形						
200009	22	#2.1.8	略タイトル	abbreviated title	体現形						
200010	22	#2.1.9	異形タイトル	variant title	体現形						
200011	20	#2.2	責任表示	statement of responsibility	体現形						
200012	22	#2.2.1	本タイトルに関係する責任表示	statement of responsibility relating to title proper	体現形						
200013	22	#2.2.2	本タイトルに関係する並列責任表示	parallel statement of responsibility relating to title proper	体現形						
200014	20	#2.3	版表示	edition statement	体現形				記述対象がどのような版であるかを示す表示。版次の他に、付加的版次、版に関する責任表示、付加的版に関する責任表示の全部または一部を伴う場合があ	2019-03-22	
200015	21	#2.3.1	版次	designation of edition	体現形			版表示	記述対象が属する版を示す語、数字またはこれらの組み合わせ。	2019-03-22	
200016	21	#2.3.2	並列版次	parallel designation of edition	体現形			版表示	版次として記録したものと異なる言語および（または）文字種による表示。	2019-03-22	
200017	21	#2.3.3	版に関係する責任表示	statement of responsibility relating to edition	体現形			版表示	責任表示のうち、特定の版に関係する表示。	2019-03-22	
200018	21	#2.3.4	版に関係する並列責任表示	parallel statement of responsibility relating to edition	体現形			版表示	版に関係する責任表示の、異なる言語および（または）文字種による表示。	2019-03-22	
200019	21	#2.3.5	付加的版次	designation of named revision of edition	体現形			版表示	ある版に変更が加えられて再発行されたことを示す版次。	2019-03-22	
200020	21	#2.3.6	並列付加的版次	parallel designation of named revision of edition	体現形			版表示	付加的版次として記録したものと異なる言語および（または）文字種による表示。	2019-03-22	
200021	21	#2.3.7	付加的版に関係する責任表示	statement of responsibility relating to named revision of edition	体現形			版表示	責任表示のうち、特定の付加的版に関係する表示。	2019-03-22	
200022	21	#2.3.8	付加的版に関係する並列責任表示	parallel statement of responsibility relating to named revision of edition	体現形			版表示	付加的版に関係する責任表示の、異なる言語および（または）文字種による表示。	2019-03-22	
200023	20	#2.4	逐次刊行物の順序表示	numbering of serials	体現形				逐次刊行物の個々の部分（巻号）を識別するための順序表示。巻次と年月次とがある。巻次は、数字、文字、その他の語句から成り、年月次は、年、月、日または時期を示す数字、文字から成る。	2019-03-22	
200024	22	#2.4.1	初号の巻次	numeric and/or alphabetic designation of first issue or part of sequence	体現形			逐次刊行物の順序表示	逐次刊行物の順序表示で、初号に表示された巻次、および本タイトルまたは責任表示等の重要な変化により体現形に対する新規の記述を作成した場合の、変化後の最初の号の巻次。	2019-03-22	
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	chronological designation of first	[illegible]			逐次刊行物の順序表示	逐次刊行物の順序表示で、初号に表示された年月次、および本タイトルまたは		

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

2020.12

RDFデータ提供開始

Turtle、JSON-LD

```
@prefix rdf: <http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#> .
@prefix rdfs: <http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#> .
@prefix skos: <http://www.w3.org/2004/02/skos/core#> .
@prefix owl: <http://www.w3.org/2002/07/owl#> .
@prefix dcterms: <http://purl.org/dc/terms/> .
@prefix ncrvocab: <http://jla.or.jp/vocab/ncr2018#> .

<http://jla.or.jp/term/ncr2018/E200001>
    ncrvocab:id "200001" ;
    rdf:type rdf:Property ;
    ncrvocab:type ncrvocab:Type20 ;
    ncrvocab:instructionNumber "#2.1" ;
    rdfs:label "タイトル" ;
    rdfs:label "title"@en ;
    owl:equivalentProperty <http://rdaregistry.info/Elements/m/P3013
    rdfs:domain <http://jla.or.jp/term/ncr2018/C100003> ;
    rdfs:comment "体現形の名称または体現形で具体化された著作の名称で
または文字の集合。" ;
    dcterms:modified "2020-05-09"^^dcterms:W3CDTF ;
    rdfs:isDefinedBy <http://jla.or.jp/term/ncr2018/> .

<http://jla.or.jp/term/ncr2018/E200002>
    ncrvocab:id "200002" ;
    rdf:type rdf:Property ;
    ncrvocab:type ncrvocab:Type22 ;
    ncrvocab:instructionNumber "#2.1.1" ;
    rdfs:label "本タイトル" ;
    rdfs:label "title proper"@en ;
    owl:equivalentProperty <http://rdaregistry.info/Elements/m/P30156> ;
    rdfs:domain <http://jla.or.jp/term/ncr2018/C100003> ;
    rdfs:subPropertyOf <http://jla.or.jp/term/ncr2018/E200001> ;
    rdfs:comment "体現形を識別するための固有の名称。" ;
    dcterms:modified "2020-05-09"^^dcterms:W3CDTF ;
    rdfs:isDefinedBy <http://jla.or.jp/term/ncr2018/> .

<http://jla.or.jp/term/ncr2018/E200003>
    ncrvocab:id "200003" ;
    rdf:type rdf:Property ;
    ncrvocab:type ncrvocab:Type22 ;
    ncrvocab:instructionNumber "#2.1.2" ;
    rdfs:label "並列タイトル" ;
    rdfs:label "parallel title proper"@en ;
```

RDFデータ

提供ファイル

RDFは、TurtleとJSON-LDによるシリアライゼーションを適用したファイルを提供いたします。

実体

エレメント

語彙のリストの用語

関連指示子

併せて、語彙の定義用に新規に導入したプロパティについてもRDFデータを提供いたします。

定義用プロパティ

ファイル（ZIP形式）は以下からダウンロードしてご利用ください。

Turtle　*2024.8.17更新（2024.5.1時点データ）

JSON-LD　*2024.8.17更新（2024.5.1時点データ）

これらのファイルは クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供します。

「NCR2018年版エレメント・語彙等データ提供」2019.3.23-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-lod/

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

「これはLODの実現に向けた取り組みの最初の一歩と位置づけられる。」

カレントアウェアネス-E
No.414 2021.06.10

E2391

NCR2018年版が規定するエレメント等の語彙のRDFデータ公開

慶應義塾大学文学部・谷口祥一（たにぐちしょういち）

筆者が委員として参加している日本図書館協会(JLA)目録委員会は，日本目録規則2018年版（以下「NCR2018」；CA1951参照）が規定している実体，エレメント，語彙のリストの用語，関連指示子のそれぞれについて，その定義データをRDF（メタデータ記述の汎用的な構文枠組みの規定）に基づいた形式でCC BY 4.0の条件の下で2020年12月に公開した。これはLOD（Linked Open Data；CA1746参照）の実現に向けた取り組みの最初の一歩と位置づけられる。その後，2021年4月にも一部データの修正を行っている。

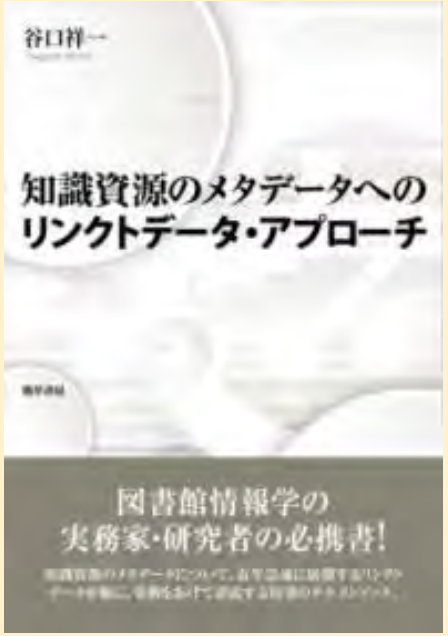
●経緯

目録委員会は2019年3月から，NCR2018が規定する実体，エレメント，語彙のリストの用語，関連指示子について，XLSX形式ファイルおよびCSV形式ファイル（その後，TSV形式に変更）で定義データの公開・提供を行ってきた。将来的な展開を意図してのデータ公開であった。その後，同年7月と2020年12月に，一部のデータに対してより整合的なデータとなるよう修正を加えるとともに，RDA（Resour
Description and Access；CA1766，CA1767，CA1837参照）の対応するエレメントや語彙のリ
語等に付与されたURIを新たに定義データに追加した。

並行して目録委員会は，これらNCR2018語彙定義のRDF形式データ公開に向けて，必要な仕様
を重ね，2020年12月にデータ公開に至った。仕様の策定においては，先行して公開を始めている
彙のRDF定義データを参考にしている。ただし，RDA語彙は全体として複雑であり，その全てに
は得策ではないと判断し，RDA語彙定義の方式には必ずしも依拠していない。併せて，JLAの分

谷口祥一「NCR2018年版が規定するエレメント等の語彙のRDFデータ公開」『カレントアウェアネス-E』2021.6
https://current.ndl.go.jp/e2391

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供



こちらにより詳しく

谷口祥一『知識資源のメタデータへのリンクトデータ・アプローチ』勁草書房, 2023

第7章「図書館目録のリンクトデータ（1）
FRBRとNCR2018
7.3 日本目録規則2018年版（NCR2018）
（pp.177-199）

エレメント・語彙等データ（LODデータ）提供

主な項目

ID、種別、条項番号、名称、名称（英語）、対応するRDA語彙、定義域、値域、対応エレメント、上位、逆方向、定義

＊「定義域」は、エレメント、関連指示子に適用
＊「値域」は、関連のエレメント、関連指示子に適用（XLSXのみ）
＊「対応エレメント」は、語彙のリストの用語、関連指示子に適用
＊「上位」は、実体、エレメント、関連指示子の一部に適用
＊「逆方向」は、関連指示子の一部に適用

データ数

実体	14個
＊「NCR2018実体」「書誌的実体」「行為主体」を含む	
エレメント	371個
語彙のリストの用語	416個
関連指示子	566個
アクセス・ポイント	11個
総計	1,378個

誰かのお役に立てているのか…

目次

1. NCR2018とその実装状況

2. 目録委員会の活動

3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体

4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺

5. 目録委員会2019-2025（3）その他

6. NCRの今後？

おわりに

解説書の刊行

木村麻衣子編著；日本図書館協会目録委員会監修
『「日本目録規則　2018年版」入門』
（JLA図書館実践シリーズ　47）　日本図書館協会　2022.1

2024.7　第2刷

「本書は図書館員のみなさま，司書課程修了者の方々を対象に，NCR2018の概要を説明し，これに準拠した目録作業について具体的に示した解説書です。旧版のNCR1987年版との相違点を示して，新規則を用いた目録作業への具体的なイメージを持っていただくことを目指しました。」

データ作成事例

日本目録規則2018年版データ作成事例

公開日 2025年06月29日　更新日 2025年07月22日

2021.12.24 Last update: 2024.9.24

当ページへのリンクはこちら: https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-sample

日本図書館協会目録委員会

『日本目録規則2018年版』のデータ作成例を公開します。

凡例

・本データ作成例は、『日本目録規則2018年版』の実装の一例としてお示しするものです。本例以外の実装のあり方を排除するものではありません。

・各エレメントの値は『日本目録規則2018年版』の本則を採用の上で決定していますが、これまでの目録慣行とは異なる値となるエレメントを中心に、「記録の異なる選択肢」の列に別法や任意追加、任意省略を採用した場合の値をも示している場合があります。ただし、すべての別法、任意追加、任意省略に対応したものではありません。

・#0.5.1.2により、コア・エレメントについては、適用可能でかつ情報を容易に確認できる場合はすべて記録しています。任意のエレメントは、これまでの目録慣行において通常想定される範囲で記録しています。

・著作および表現形に対するエレメントのうち、コア・エレメントとなるかどうかが場合によるもの

トの識別要素としたエレメントをコア・エレメントに位置づけています。

・「NCR2018条項番号」の列には、サブエレメント、あるいはエレメント・サブタイプがある場合に

・「実体NO.」の列には、同種の実体（「個人」など）が複数存在する場合に、各実体に対する一連の

た番号を入力しています。

「日本目録規則2018年版データ作成事例」2021.12.24-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-sample/

データ作成事例

現在21セット　2021.12　1-10公開
2023.4　11-16公開
2024.3　17-21公開

事例は こちら（.xlsx形式）をご覧ください。

シートNO.	事例	事例の特徴	公開日 更新日
1-1	自負と偏見	日本語 (冊子体)	2021/12/24 2023/ 4/ 1
1-2	Pride and prejudice	英語 (冊子体)	2021/12/24 2023/ 4/ 1
2	図書館利用に障害のある人々へのサービス	上下巻	2021/12/24 2023/ 4/ 1
3-1	ペンギン・ハイウェイ	原作小説	2021/12/24 2023/ 4/ 1
3-2	ペンギン・ハイウェイ	DVD	2021/12/24 2023/ 4/ 1
4-1	1Q84	英訳 (冊子体)	2021/12/24
4-2	1Q84	英訳 (電子書籍)	

「日本目録規則2018年版データ作成事例」2021.12.24-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-sample/

データ作成事例

事例は、1つのExcelファイルで

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
シートNo.	実体	実体No.	NCR2018条項番号	エレメント／アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ	サブエレメント	コア・エレメント	値	値の記録の異なる選択肢	備考
1-1	体現形(属性)		#2.1.1	タイトル	本タイトル		○	自負と偏見		
1-1	体現形(属性)		#2.2.1	責任表示	本タイトルに関係する責任表示		○	オースティン [著]		
1-1	体現形(属性)		#2.2.1	責任表示	本タイトルに関係する責任表示			中野好夫訳		
1-1	体現形(属性)		#2.5.1	出版表示		出版地	○	東京		
1-1	体現形(属性)		#2.5.3	出版表示		出版者	○	株式会社新潮社	#2.5.3.2 任意省略2 新潮社	
1-1	体現形(属性)		#2.5.5	出版表示		出版日付	○	1997.7.30	#2.5.5.2 任意省略 1997.7	
1-1	体現形(属性)		#2.10.1	シリーズ表示		シリーズの本タイトル	○	新潮文庫		
1-1	体現形(属性)		#2.10.8	シリーズ表示		シリーズ内番号	○	5171		
1-1	体現形(属性)		#2.10.8	シリーズ表示		シリーズ内番号	○	オ-3-3		
1-1	体現形(属性)		#2.12	刊行方式				単巻資料		
1-1	体現形(属性)		#2.15	機器種別				機器不用		
1-1	体現形(属性)		#2.16	キャリア種別			○	冊子		
1-1	体現形(属性)		#2.17	数量			○	606p		
1-1	体現形(属性)		#2.18	大きさ				16cm		
1-1	体現形(属性)		#2.34	体現形の識別子			○	ISBN 978-4-10-213103-9		
1-1	体現形(属性)		#2.35	入手条件				781円(税別)		
1-1	体現形(関連)		#42.6	体現形から表現形への関連			○	Austen, Jane, 1775-1817. Pride and prejudice. 日本語 (中野好夫)		
1-1	体現形(関連)		#43.3	体現形間の関連				上位(体現形): 新潮文庫. — 東京 : 新潮社, 1914-		
1-1	著作(属性)		#4.1	著作のタイトル	著作の優先タイトル		○	Pride and prejudice		
1-1	著作(属性)		#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			高慢と偏見||コウマント ヘンケン		
1-1	著作(属性)		#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			誇りと偏見||ホコリト ヘンケン		
1-1	著作(属性)		#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			自負と偏見||ジフト ヘンケン		
1-1	著作(属性)		#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			自尊と偏見||ジソント ヘンケン		
1-1	著作(属性)		#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			First impressions		
1-1	著作(属性)		#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			第一印象||ダイイチ インショウ		
1-1	著作(属性)		#4.3	著作の形式				小説		
1-1	著作(属性)		#4.4	著作の日付				1813		
								1796年～1797年にかけて執筆された当初		

一覧 1-1 1-2 2 3-1 3-2 4-1 4-2 5-1 5-2 6 7-1 7-2 8-1 8-2 9 10 11 12 13-1 13-2 14-1 14-2 14-3 15-1 15-2 16-1

データ作成事例

体現形

実体	実体No.	NCR2018条項番号	エレメント／アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ	サブエレメント	コア・エレメント	値
体現形(属性)		#2.1.1	タイトル	本タイトル		○	自負と偏見
体現形(属性)		#2.2.1	責任表示	本タイトルに関係する責任表示		○	オースティン [著]
体現形(属性)		#2.2.1	責任表示	本タイトルに関係する責任表示			中野好夫訳
体現形(属性)		#2.5.1	出版表示		出版地	○	東京
体現形(属性)		#2.5.3	出版表示		出版者	○	株式会社新潮社
体現形(属性)		#2.5.5	出版表示		出版日付	○	1997.7.30
体現形(属性)		#2.10.1	シリーズ表示		シリーズの本タイトル	○	新潮文庫
体現形(属性)		#2.10.8	シリーズ表示		シリーズ内番号	○	5171
体現形(属性)		#2.10.8	シリーズ表示		シリーズ内番号	○	オ-3-3
体現形(属性)		#2.12	刊行方式				単巻資料
体現形(属性)		#2.15	機器種別				機器不用
体現形(属性)		#2.16	キャリア種別			○	冊子
体現形(属性)		#2.17	数量			○	606p
体現形(属性)		#2.18	大きさ				16cm
体現形(属性)		#2.34	体現形の識別子			○	ISBN 978-4-10-213103-9
体現形(属性)		#2.35	入手条件				781円(税別)
体現形(関連)		#42.6	体現形から表現形への関連			○	Austen, Jane, 1775-1817. Pride and prejudice. 日本語 (中野好夫)
体現形(関連)		#43.3	体現形間の関連				上位(体現形): 新潮文庫. — 東京 : 新潮社, 1914-

表現形

表現形(属性)	#5.1	表現種別			○	テキスト
表現形(属性)	#5.2	表現形の日付				1963
表現形(属性)	#5.3	表現形の言語			○	日本語
表現形(属性)	#5.4	表現形のその他の特性			○	中野好夫
表現形(属性)	#5.6	確定状況				確立
表現形(属性)	#5.16	付加的内容				付: 解説
表現形	#23.1	表現形に対する典拠形アクセス・ポイント				Austen, Jane, 1775-1817. Pride and prejudice. 日本語 (中野好夫)
表現形(関連)	#42.2	表現形から著作への関連			○	Austen, Jane, 1775-1817. Pride and prejudice
表現形(関連)	#42.5	表現形から体現形への関連				ISBN 978-4-10-213103-9
表現形(関連)	#44.2.1	寄与者				訳者: 中野, 好夫||ナカノ, ヨシオ, 1903-1985

著作

著作(属性)	#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			高慢と偏見||コウマント ヘンケン
著作(属性)	#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			誇りと偏見||ホコリト ヘンケン
著作(属性)	#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			自負と偏見||ジフト ヘンケン
著作(属性)	#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			自尊と偏見||ジソント ヘンケン
著作(属性)	#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			First impressions
著作(属性)	#4.2	著作のタイトル	著作の異形タイトル			第一印象||ダイイチ インショウ
著作(属性)	#4.3	著作の形式				小説
著作(属性)	#4.4	著作の日付				1813
著作(属性)	#4.8	著作の履歴				1796年～1797年にかけて執筆された当初の題名は「第一印象」。後に、改稿・改題を経て1813年刊。
著作(属性)	#4.10	確定状況				確立
著作(属性)	#4.11	出典				著作の履歴は"こうまんとへんけん【高慢と偏見】", デジタル大辞泉, JapanKnowledge (参照 2020-12-16)による。
著作	#22.1	著作に対する典拠形アクセス・ポイント				Austen, Jane, 1775-1817. Pride and prejudice
著作(関連)	#42.1	著作から表現形への関連				Austen, Jane, 1775-1817. Pride and prejudice. 日本語 (中野好夫)
著作(関連)	#43.1	著作間の関連				映画化(著作): Pride and prejudice (映画 : 1940)
著作(関連)	#43.1	著作間の関連				映画化(著作): Pride & prejudice (映画 : 2005)
著作(関連)	#43.1	著作間の関連				テレビ番組化(著作): Pride and prejudice (テレビドラマ : 1995)
著作(関連)	#44.1.1	創作者			○	著者: Austen, Jane, 1775-1817

個人

個人(属性)	1	#6.1	個人の名称	個人の優先名称		○	Austen, Jane
個人(属性)	1	#6.2	個人の名称	個人の異形名称			オースティン, ジェーン
個人(属性)	1	#6.2	個人の名称	個人の異形名称			オースティン, ジェイン
個人(属性)	1	#6.3.3.1	個人と結びつく日付	生年		○	1775
個人(属性)	1	#6.3.3.2	個人と結びつく日付	没年		○	1817
個人(属性)	1	#6.6	職業				小説家
個人(属性)	1	#6.10	出生地				U.K.
個人(属性)	1	#6.17	略歴				いる。実名は彼女の著作 見》を出版社に送った る。ついで97-98年執 [illegible]出版社に
個人(属性)	1	#6.18	個人の識別子			○	国立国会図書館典拠
個人(属性)	1	#6.21	確定状況				確立
個人(属性)	1	#6.23	出典				個人の異形名称は国 データ検索・提供サー .jp/auth/ndlna/00431
個人(属性)	1	#6.23	出典				略歴は"オースティン(Jane Austen)", 世界大百科事典, JapanKnowledge (参照 2020-12-16)による。
個人	1	#26.1	個人に対する典拠形アクセス・ポイント				Austen, Jane, 1775-1817
個人(属性)	2	#6.1	個人の名称	個人の優先名称		○	中野, 好夫||ナカノ, ヨシオ
個人(属性)	2	#6.3.3.1	個人と結びつく日付	生年		○	1903
個人(属性)	2	#6.3.3.2	個人と結びつく日付	没年		○	1985
個人(属性)	2	#6.6	職業				英文学者

実体ごとに作成し、関連づける方式
（司書課程教科書にも類似の例示あり）

データ作成事例

日本目録規則2018年版データ作成事例

実装の一例
（その他の実装を排除しない）
コア・エレメント＋α
関連の記録は、原則AAPを使用

当ページへのリンクはこちら: https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018-sample

日本図書館協会目録委員会

『日本目録規則2018年版』のデータ作成例を公開します。

凡例

・本データ作成例は、『日本目録規則2018年版』の実装の一例としてお示しするものです。本例以外の実装のあり方を排除するものではありません。
・各エレメントの値は『日本目録規則2018年版』の本則を採用の上で決定していますが、これまでの目録慣行とは異なる値となるエレメントを中心に、「記録の異なる選択肢」の列に別法や任意追加、任意省略を採用した場合の値をも示している場合があります。ただし、すべての別法、任意追加、任意省略に対応したものではありません。
・#0.5.1.2により、コア・エレメントについては、適用可能でかつ情報を容易に確認できる場合はすべて記録しています。任意のエレメントは、これまでの目録慣行において通常想定される範囲で記録しています。
・著作および表現形に対するエレメントのうち、コア・エレメントとなるかどうかが場合によるものに
トの識別要素としたエレメントをコア・エレメントに位置づけています。
・「NCR2018条項番号」の列には、サブエレメント、あるいはエレメント・サブタイプがある場合は
・「実体NO.」の列には、同種の実体（「個人」など）が複数存在する場合に、各実体に対する一連の
た番号を入力しています。
・関連の記録には、原則として典拠形アクセス・ポイントを採用しています。ただし、「#42.5表現形

「日本目録規則2018年版データ作成事例」2021.12.24-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-sample/

データ作成事例

対象は、かなり多彩

シートNo	事例	事例の特徴	公開日	更新日
1-1	自負と偏見	英語による小説の日本語訳	2021/12/24	2023/4/1
1-2	Pride and prejudice	英語による小説	2021/12/24	2023/4/1
2	図書館利用に障害のある人々へのサービス	上下巻	2021/12/24	2023/4/1
3-1	ペンギン・ハイウェイ	映画の原作小説	2021/12/24	2023/4/1
3-2	ペンギン・ハイウェイ	映画のDVD	2021/12/24	2023/4/1
4-1	1Q84	日本語による小説の英訳(冊子体)	2021/12/24	2022/12/19
4-2	1Q84	日本語による小説の英訳(電子書籍)	2021/12/24	2022/12/19
5-1	日本目録規則	冊子体	2021/12/24	2024/9/24
5-2	日本目録規則	PDF	2021/12/24	2024/9/24

データ作成事例

対象は、かなり多彩
ここまで、解説書刊行時

シートNo	事例	事例の特徴	公開日	更新日
6	アジア・アフリカ文法研究	逐次刊行物	2021/12/24	2023/4/1
7-1	東都大学紀要	継続前誌	2021/12/24	
7-2	東都医療大学紀要	継続後誌	2021/12/24	2023/4/1
8-1	小牧山	家族による著作	2021/12/24	2024/9/24
8-2	小牧山	家族による著作(デジタル化)	2024/9/24	
9	国文学研究資料館蔵橋本本『源氏物語』「若紫」	翻刻・影印	2021/12/24	2023/4/1
10	オペラ座の怪人	楽譜	2021/12/24	2023/4/1

データ作成事例

ここからは、各委員輪番作成委員会でけっこう議論？

シートNo	事例	事例の特徴	公開日	更新日
11	映画すみっコぐらし青い月夜のまほうのコ	映画を原作とする絵本	2023/4/1	
12	目録委員会ウェブサイト	ウェブサイト	2023/4/1	
13-1	夫婦	書誌階層構造(基礎書誌レベル)	2023/4/1	
13-2	夫婦の法の課題	書誌階層構造(下位書誌レベル)	2023/4/1	
14-1	自殺の国	2度にわたる改題	2023/4/1	
14-2	まちあわせ	2度にわたる改題	2023/4/1	
14-3	JR品川駅高輪口	2度にわたる改題	2023/4/1	
15-1	پرده	英語による小説のペルシャ語訳(目録用言語: 英語)	2023/4/1	
15-2	Curtain	英語による小説(目録用言語: 英語)	2023/4/1	

データ作成事例

シートN	事例	事例の特徴	公開日	更新日
16-1	茶の本；日本の覚醒	総合タイトルのない資料	2023/4/1	
16-2	茶の本；日本の覚醒	総合タイトルのない資料(IFLA図書館参照モデル準拠)	2023/4/1	
16-説明	茶の本；日本の覚醒	(事例16の説明用シート)	2023/4/1	
17	『日本目録規則2018年版』入門	編著	2024/3/15	2024/9/24
18-1-1	西航手帳	本体(本体と解説を別体現形とみなした場合)	2024/3/15	2024/9/24
18-1-2	西航手帳解説	解説(本体と解説を別体現形とみなした場合)	2024/3/15	
18-2	西航手帳	本体と解説(セットで1つの体現形とみなした場合)	2024/3/15	
19-1	恋いのうた。	付属CDのある図書	2024/3/15	
19-2	恋いのうた。恋歌詠み上げCD	図書の付属CD	2024/3/15	
20	農業経済学	改版に伴う責任表示の変化	2024/3/15	
21	SPSSでやさしく学ぶ統計解析	改版に伴う責任表示の変化	2024/3/15	

データ作成事例

対象は、かなり多彩

シートNo	事例	事例の特徴	公開日	更新日
1-1	自負と偏見	英語による小説の日本語訳	2024/10/04	2023/4/1
1-2	Pride and		4	2023/4/1
2	図書館利ス		4	2023/4/1
3-1	ペンギン・		4	2023/4/1
3-2	ペンギン・		4	2023/4/1
4-1	1Q84	(冊子体)	4	2022/12/19
4-2	1Q84	日本語による小説の英訳(電子書籍)	2021/12/24	2022/12/19
5-1	日本目録規則	冊子体	2021/12/24	2024/9/24
5-2	日本目録規則	PDF	2021/12/24	2024/9/24

本年、さらに若干追加予定

- 録音資料(編曲の扱いなど)
- 地図資料(本図と分図など)
- 自治体刊行物(法令資料)
- 同(遺跡発掘報告書)
- 逐次刊行物の複製
- 個人全集(定型的総合タイトルなど)
- 増補された著作

データ作成事例

シートN	事例	事例の特徴	公開日	更新日
6	アジア・アフリカ文法研究	逐次刊行物	2021/12/24	2023/4/1
7-1	東都大学紀要	継続前誌	2021/12/24	
7-2	東都医療大学紀要	継続後誌	2021/12/24	2023/4/1
8-1	小牧山	家族による著作	2021/12/24	2024/9/24
8-2	小牧山	家族による著作(デジタル化)	2024/9/24	
9	国文学研究資料館蔵橋本本『源氏物語』「若紫」	翻刻・影印	2021/12/24	2023/4/1
10	オペラ座の怪人	楽譜	2021/12/24	2023/4/1

更新(修正)を行っているものも
規則更新への対応を含む

解説書の刊行

木村麻衣子編著；日本図書館協会目録委員会監修
『「日本目録規則　2018年版」入門』
（JLA図書館実践シリーズ　47）　日本図書館協会　2022.1

「本書は図書館員のみなさま，司書課程修了者の方々を対象に，NCR2018の概要を説明し，これに準拠した目録作業について具体的に示した解説書です。旧版のNCR1987年版との相違点を示して，新規則を用いた目録作業への具体的なイメージを持っていただくことを目指しました。」

規則更新に伴う要修正あり
　修正一覧のサイト公開計画中
　時期をみて、「補訂版」？

作成事例のRDFデータ提供

2022.2～

Turtle

```
@prefix rdf: <http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#> .
@prefix rdfs: <http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#> .
@prefix ncr:  <http://jla.or.jp/term/ncr2018/> .
@prefix ex:  <http://jla.or.jp/ncr2018/data-example/> .

# 実体インスタンスURIとメタデータURIを区別しない方式

ex:体現形1-1
    rdf:type  ncr:C100003 ;
    ncr:E200002  "自負と偏見" ;
    ncr:E200012  "オースティン[著]" ;
    ncr:E200012  "中野好夫訳" ;
    ncr:E200033  "東京" ;
    ncr:E200035  "株式会社新潮社" ;
    ncr:E200037  "1997.7.30" ;
    ncr:E200058  "新潮文庫" ;
    ncr:E200065  "5171" ;
    ncr:E200065  "オ-3-3" ;
    ncr:E200074  ncr:T300001 ;  # 単巻資料
    ncr:E200076  ncr:T300028 ;  # 機器不用
    ncr:E200077  ncr:T300071 ;  # 冊子
    ncr:E200078  "606p" ;
    ncr:E200079  "16cm" ;
    ncr:E200149  "ISBN 978-4-10-213103-9" ;
    ncr:E200152  "781円 (税別) " ;
    ncr:E200339  ex:表現形1-1 ;
    ncr:R400319  "新潮文庫. -東京: 新潮社, 1914-" .

ex:著作1-1
    rdf:type  ncr:C100001 ;
    ncr:E200184  "Pride and prejudice" ;
    ncr:E200185  "高慢と偏見||コウマン ト ヘンケン" ;
    ncr:E200185  "誇りと偏見||ホコリ ト ヘンケン" ;
    ncr:E200185  "自負と偏見||ジフ ト ヘンケン" ;
    ncr:E200185  "自尊と偏見||ジソン ト ヘンケン" ;
    ncr:E200185  "First impressions" ;
    ncr:E200185  "第一印象||ダイイチ インショウ" ;
    ncr:E200186  "小説" ;
    ncr:E200187  "1813" ;
    ncr:E200190  "1796年～1797年にかけて執筆された当初の題名は「第一印象」。後に
、改稿・改題を経て1813年刊。" ;
    ncr:E200192  "確立" ;
    ncr:E200193  "著作の履歴は「こうまんとへんけん【高慢と偏見】」, デジタル大辞
泉, JapanKnowledge (参照 2020-12-16)による." ;
```

RDFデータの使用例

NCR2018によるデータ作成事例を下記ウェブページで公開しており、これら事
形式データ）を公開いたします。日本目録規則2018年版データ作成事例

提供ファイル

ファイル（ZIP形式）は以下からダウンロードしてご利用ください。

Turtle *2024.9.24更新

説明資料

データ作成事例のRDFデータ公開 *2022.2.4更新

「NCR2018年版エレメント・語彙等データ提供」2019.3.23-
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-lod/

普及イベント　全国図書館大会三重大会（2019.11）

第10分科会　目録

新しい日本目録規則

報　告：渡邊隆弘（日本図書館協会目録委員会委員長，帝塚山学院大学）
NCR2018の完成

報　告：木村麻衣子（慶應義塾大学文学部）
NCR2018で描く目録の未来

報　告：村上一恵（国立国会図書館）
『日本目録規則2018年版適用細則』について

報　告：河野江津子（慶應義塾大学メディアセンター）
RDAとNCR2018適用の経緯および事例

報　告：横山英子（株式会社図書館流通センター）
TRC MARCにおけるNCR2018の適用

分科会概要

本分科会では，国際的な目録の動向にも沿って抜本的な見直しを行った『日本目録規則2018年版』（NCR2018）を知ってもらうことを目的に，目録委員会からNCR2018の新しい考え方や特徴等を紹介し，その後実装を検討しているいくつかの機関から，検討状況や問題点等の報告を行った。

全国図書館大会での目録分科会は2010年奈良大会以来の開催となる。当時は，日本目録規則の抜本的な改訂にむけて動き始めた時期であり，分科会参加者から意見を聞く格好の機会となった。今回は，NCR

報告

NCR2018の完成

渡邊隆弘（日本図書館協会目録委員会委員長，帝塚山学院大学）

https://www.jla.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/taikai2019-10.pdf

NCR2018の普及活動

刊行後の主催イベントは、三重大会（2019）分科会のみ
「講師派遣依頼等があれば極力協力」

解説書、データ作成事例以外の普及活動は、外部におまかせ状態

NDL　遠隔研修教材、図書館総合展など

IAAL　各種研修会など

NII　　セルフラーニング教材など

＊目録委員が関与している例もあるが…

目次

1. NCR2018とその実装状況

2. 目録委員会の活動

3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体

4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺

5. 目録委員会2019-2025（3）その他

6. NCRの今後？

おわりに

「目録の作成と提供に関する調査」2025実施予定

目録の作成と提供に関する調査

公開日 2025年06月29日　更新日 2025年07月09日

2023.8にページ公開（過去調査の情報）
1964, 1972, 1981, 1989, 1997, 2010

2023.8.18公開 Last update: 2024.11.17

日本図書館協会目録委員会

日本図書館協会では、1964年以降6回にわたり、国内の公共図書館・大学図書館等を対象として、目録の作成や提供に関する調査を行ってきました。調査の名称や調査主体は、回によって異なります。
本ページでは、過去の調査の情報を整理してお示しするとともに、直近の調査である「目録の作成と提供に関する調査」（2010年実施）の報告書（2012年刊行）全文を公開します。

なお当委員会では、次回の調査を2025年度に実施すべく、検討・調整を進めていく予定です。

これまでの調査

1964年調査

調査名称「図書の整理」に関する調査調査年月1964年4月調査対象対象館：1405館（公共653、大学539、短大213）
回答館：1253館（公共634、大学486、短大133）調査報告日本図書館協会図書館調査委員会. 「図書の整理」に関する調査報告. 現代の図書館. 1965, 3(3), p.146-159.
→NDLデジタルコレクション（個人送信・図書館送信対象）

1972年調査

「目録の作成と提供に関する調査」
https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/research/

「目録の作成と提供に関する調査」2025実施予定

目録の作成と提供に関する調査

日本図書館協会　2025年度事業計画

「目録の作成と提供に関する調査」を全国の公共図書館、大学図書館、短大・高専図書館を対象に行い、結果の集計・分析を行い2025年度もしくは2026年度に協会Webサイトでで PDF公開し、報告発表を行う。

https://www.jla.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/jigyokeikaku2025.pdf

現在、鋭意準備中

実は、昨年度から委員会の最重要事項

NCR2018実装も落ち着いた段階で、調査

過去調査との継続性も意識しつつ、

現状に応じた調査項目設定

1965, 3(3), p.146-159.

→NDLデジタルコレクション（個人送信・図書館送信対象）

1972年調査

「目録の作成と提供に関する調査」

https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/research/

「過去のNCR」

過去のNCR

2023.10にページ公開
「国立国会図書館デジタルコレクション」にある1952年版～新版予備版までがインターネット公開に

日本図書館協会目録委員

本ページでは、『日本目録規則2018年版』以前の日本目録規則（NCR）各版について、その書誌事項と電子データ（NDLデジタルコレクション）へのリンク等を掲載します。

お知らせ（新版予備版までのインターネット公開）

2023年10月2日、日本図書館協会によるインターネット公開許諾が行われたことにより、1952年版（1953）から新版予備版（1977）に至るNCR各版とその周辺資料計8点が、国立国会図書館（NDL）デジタルコレクション上で「ログインなしで閲覧可能」の扱いとなりました。研究調査等にお役立てください。

＊これまでは、規則そのものは「国立国会図書館内限定」、周辺資料は「送信サービスで閲覧可能」でした。

『日本目録規則1942年版』

日本目録規則：N.C.R. 昭和17年(1942) / 青年図書館員聯盟目録法制定委員会編
大阪：間宮商店, 1943
122p；26cm
→NDLデジタルコレクション（ログインなしで閲覧可能）

「過去のNCR」
https://www.jla.or.jp/committe

その他、調査研究活動等

IFLA LRM、RDAに関する、把握・検討

その他IFLA関係動向把握等

国際目録原則（ICP）改訂のWorld Wide Review　2025.3-5

＊LRM対応など

https://www.ifla.org/news/international-cataloguing-principles-icp-worldwide-review/

目録委員会名で意見送付

目次

1. NCR2018とその実装状況

2. 目録委員会の活動

3. 目録委員会2019-2025（1）規則自体

4. 目録委員会2019-2025（2）規則の周辺

5. 目録委員会2019-2025（3）その他

6. NCRの今後？

おわりに

4-3）本規則の今後

現時点の本規則には、規定の策定を保留している未刊の部分がある。また、本規則は従来の NCR と異なり、数年以上の間隔をおいてなされる改訂版の刊行まで固定されたものではない。RDA や国際標準の改訂に伴う事項を含めて随時見直し、改訂を行っていく予定である。

現時点で、以下の点を検討すべき問題と認識している。

① IFLA LRM への準拠

IFLA は 2017 年に、FRBR、FRAD、FRSAD の 3 つの概念モデルを統合して再検討を加えた新たな概念モデルとして、IFLA LRM（Library Reference Model）を発表した。ICP は 2016 年の改訂で IFLA LRM の考え方を一部取り入れている。また、RDA は 2018 年に、これに対応した改訂を行ったベータ版を公開している。本規則も、対応を図る必要がある。

② FRBR の第 3 グループの実体を扱う章の完成

FRBR の第 3 グループの実体については、場所の属性の一部を除き、保留（未刊）である。RDA でも多くの章が未刊であるが、刊行されている部分もあり、相互運用性の担保が求められる。

③ 体現形および個別資料に対するアクセス・ポイントの構築を扱う章の完成

章を設けているが、保留（未刊）である。RDA にも該当する規定はないが、ICP は 2016 年の改訂で、体現形および個別資料に対しても典拠形アクセス・ポイントが作成され得ることを明確にしている。国際標準等の動向を見ながら、対応する必要がある。

④ 属性の記録における、上位書誌レベルおよび下位書誌レベルの情報の扱い

上位書誌レベルおよび下位書誌レベルの情報の記録は、関連の記録として行うことができるが、体現形の属性の記録における扱いについては、引き続き検討しなければならない。雑誌記事などの構成部分を記述対象とする場合に、収録紙誌等の情報をシリーズ表示等のエレメントとして記録することを検討したが、現時点では除外することとした。また、内容細目等を想定して下位レベルの記録の条項を設けて検討したが、現時点では不使用とした。国際標準等の動向によっては、これらの扱いについて見直す必要がある。

⑤ 和古書・漢籍に関する規定の充実

全体にわたって、和古書・漢籍に関する規定については、検討が不十分な状態である。充実を図る必要がある。

NCR2018「序説」
末尾に
「本規則の今後」

4-3）本規則の今後

現時点の本規則には、規定の策定を保留している未刊の部分がある。また、本規則は従来のNCRと異なり、数年以上の間隔をおいてなされる改訂版の刊行まで固定されたものではない。RDAや国際標準の改訂に伴う事項を含めて随時見直し、改訂を行っていく予定である。

・次の「改訂版」まで固定とは考えない
　「随時見直し」

・現時点で検討すべき課題
（1）IFLA LRMへの準拠
（2）FRBR第3グループの実体を扱う章の完成
（3）体現形、個別資料のAAPを扱う章の完成
（4）属性の記録における上位／下位書誌レベルの扱い
（5）和古書・漢籍に関する規定
（6）語彙のリスト等における日本独自の用語

らない。雑誌記事などの構成部分を記述対象とする場合に、収録紙誌等の情報をシリーズ表示等のエレメントとし
した。また、内容細目等を想
点では不使用とした。国際標
がある。

⑤　和古書・漢籍に関する規定
　全体にわたって、和古書・
充実を図る必要がある。

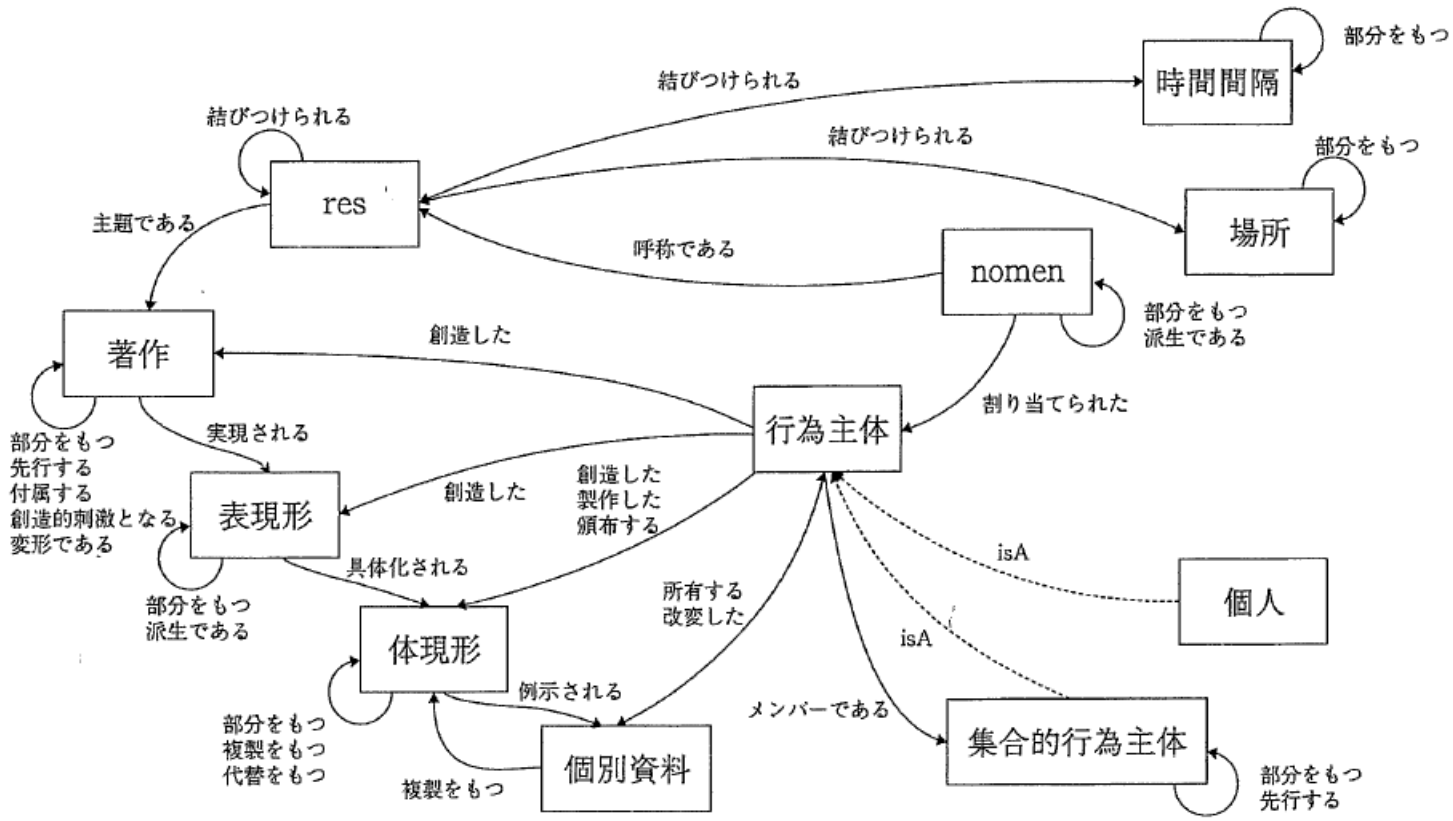
⑥　語彙のリスト等における日本独自の用語の検討

内容更新を行うように（2022年度～）

（6）をわずかに実施（関連指示子）した程度
（3）を一度検討したが、見送りに

IFLA LRM（Library Reference Model）（2017）
FRBR familyは過去モデルに

図 5.6　関連の概観



Pat Rivaほか著　和中幹雄, 古川肇訳
『IFLA図書館参照モデル：書誌情報の概念モデル』樹村房, 2019

NCR2018策定の基本方針

ここの前提が、早々に崩れている…

国際標準（ICP等）に準拠
＝FRBRを基盤とする規則

RDAとの相互運用性を重視
エレメントの設定は、基本的に対応

日本における出版状況等に留意

NCR1987年版とそれに基づく目録慣行に配慮
あえてRDAと異なる本則とする箇所も

論理的でわかりやすく、実務面で使いやすく
あえてRDAと異なる構成をとる箇所も

ウェブ環境に適合した提供方法

RDAとの相互運用性…

R | D | A TOOLKIT

Tezukayama Gakuin University

ENTITIES GUIDANCE POLICIES RESOURCES

Download P

Entities > Manifestation

Manifestation

Definition and Scope

A physical embodiment of an expression of a work.

Prerecording

The term *manifestation* may refer to:

- an individual manifestation
- a part of a manifestation
- a *published manifestation*
- an *unpublished manifestation*

In RDA, transcription of data from the source ensures that, where applicable, the d reflects how a manifestation represents itself. Transcription can also function as a means of differentiating one manifestation from another.

For specific guidance about manifestation statements, see Manifestation stateme.

Manifestations of a work are sometimes available in different formats (e.g., as prin text and microfilm; as an audio disc and audiocassette). When this occurs, record t elements that apply to the carrier of the manifestation being described. Record relationships to other available formats as an RDA Entity: related manifestation of RDA entity.

When describing a facsimile or reproduction, record the elements describing the

2018.6 新ツールキット「ベータ版」
LRM対応、構造も一新
2020.12 ベータ版が正規版に
2023.5 オリジナル版の廃止予定発表
2023.6 PCCの移行方針（2024～2027）
2027.5 オリジナル版廃止予定

R|D|A TOOLKIT RESOURCE DESCRIPTION & ACCESS

Return to the Official RDA Toolkit

RDA TOOLS RESOURCES

- RDA
  - RDA Table of Contents
  - 0: Introduction
  - Section 1: Recording Attributes of Manifestation & Item
    - 1: General Guidelines on Recording Attributes of Manifestations and Items
    - 2: **Identifying Manifestations and Items**
    - 3: Describing Carriers
    - 4: Providing Acquisition and Access Information
  - Section 2: Recording Attributes of Work & Expression
    - 5: General Guidelines on Recording Attributes of Works and Expressions
    - 6: Identifying Works and Expressions
    - 7: Describing Content
  - Section 3: Recording Attributes of Agents
    - 8: General Guidelines on Recording Attributes of Agents
    - 9: Identifying Persons
    - 10: Identifying Families
    - 11: Identifying Corporate Bodies
  - Section 4: Recording Attributes of Concept, Object, Event & Place
    - 12: General Guidelines on Recording Attributes of Concepts, Objects, Events, and Places
    - 13: Identifying Concepts
    - 14: Identifying Objects
    - 15: Identifying Events
    - 16: Identifying Places
  - Section 5: Recording Primary Relationships Between Work, Expression, Manifestation, & Item
    - 17: General Guidelines on Recording Primary Relationships
  - Section 6: Recording Relationships to Agents
    - 18: General Guidelines on Recording Relationships to Agents Associated with a Work, Expression, Manifestation, or Item

[1] 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

2

IDENTIFYING MANIFESTATIONS AND ITEMS

2.0 Purpose and Scope

This chapter provides general guidelines and instructions on recording the attributes of manifestations and items that are identify a manifestation or item. These attributes are recorded using the elements covered in this chapter.

The elements in chapter 2 reflect the information typically used by the producers of manifestations to identify their produc of responsibility, edition statement). The user generally relies on these same elements:

a) to determine whether the manifestation described is the one sought

b) to distinguish between manifestations with similar identifying information.

Not all of the elements covered in this chapter will be applicable to the description of a particular manifestation. For those applicable, the description of the manifestation should include at least those that are identified as core elements (see 1.3 are not sufficient to differentiate the manifestation from others with similar identifying information, include additional ele from:

this chapter

or

chapter 3 RDA (Describing Carriers)

or

chapter 4 RDA (Providing Acquisition and Access Information).

2.1 Basis for Identification of the Manifestation LC-PCC PS DA-CN

2.1.1 General Guidelines

現・正規版RDA

LRM対応

条項番号がなくなり、線形的に「読んで理解する」規則ではない

膨大なエレメントの集積

AACR2から引き継いだ規定の多くが、規則本体から分離
　各機関・コミュニティの「適用細則」に吸収

「アプリケーション・プロファイル」の存在を前提とした規則

北米での実装がどのように着地するのか…

NCRのこれから…？

[NCR2018の]今後は、準拠する概念モデルのIFLA LRMへの切り替えの有無、そして3Rプロジェクト後のRDAとの乖離をどのように考えるべきかが、大きな検討課題である。

谷口祥一「図書館目録のメタデータの標準化経緯と現在」『「メタデータ」のパースペクティブ（デジタルアーカイブ・ベーシックス）』勉誠社, 2025.6. pp.13-28

ここまで来ると、全くの私見（「委員長見解」でもない）

- LRM実体に対応した組み換え（規則としては全面改訂）にどれだけの意味があるか…
- LRMで編み出された新規概念の組み入れ？
  「代表表現形」「集合体現形」
- 正規版RDAに対応した改訂？
  もはや冊子体やPDFではありえない
- そもそもRDAに対応した枠組みを再生産する意味があるか？
  RDAを採用し、「日本版アプリケーション・プロファイル」？

NCRのこれから…？

規則と実装のあいだ

こういう希望は、
何度か述べてきた

NCR2018もRDAも，従来の規則と比べ柔軟性が高く，実装にはさまざまな選択肢がありえます。海外のOPAC等でRDAによる書誌データを参照できますが，実はAACR2時代と比べ極端な隔たりはありません。

NCR2018の実装方法はこれから各機関で検討されていきます。日本では著作の取り扱いが欧米以上に希薄だったことなどから，変化はより大きくならざるをえない面がありますが，規則の見た目の隔たりほどに，これまでと断絶した形にはならないと思われます。

しかし，あるいはだからこそ，新たな規則の本質をふまえての運用を望みたいと思います。許容されているからといって，これまでと大して変わらない考え方での運用では，やはりこれまでの目録にしかなりません。

渡邊隆弘「『日本目録規則2018年版』: つながりをもった目録へ」『図書館雑誌』113(8), 2019.8, p.509-511.

NCRのこれから…？

規則と実装のあいだ

かつての規則に比べ、一定の隔たり

柔軟性が高く、さまざまな選択肢の幅
規則を素直に反映しない書誌フレームワーク

実装にむやみに口を出すのは本旨にもとるが…
規則維持組織として、貢献できることが考えられる？

NCRのこれから…？

規則の維持体制という問題も

「協会の委員会」が独立して規則策定・維持するのは、
もはや無理？

そもそもNCR2018もNDLとの協働で完成したもの

目次

１. NCR2018とその実装状況

２. 目録委員会の活動

３. 目録委員会2019-2025（１）規則自体

４. 目録委員会2019-2025（２）規則の周辺

５. 目録委員会2019-2025（３）その他

６. NCRの今後？

おわりに

情報組織化研究グループ月例研究会
2025.7.26

NCR2018の「それから」

連続企画「図書館資料組織化の”三大ツール”（目録・分類・件名）の現状を考える」

渡 邊　隆 弘
（帝塚山学院大学）

watanabe@tezuka-gu.ac.jp